

(別紙) 「第4回加東市消防団のあり方検討委員会」会議の経過

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - (1)小規模分団の統廃合及び定数の見直しについて
 - (2)第1回から第3回までのまとめについて

発言者	説明内容・発言内容等
議長	挨拶
事務局	議事説明
議長	事務局の説明に対する質疑などあれば意見を伺いたい。
委員	加東市の人口年代構成の中の20～39歳には兵庫教育大学の学生も含むのか？
事務局	含んでいる。
委員	分団再編成案について、ひろのが丘や南山地区など現在消防団がない地区は、分団を新たに結成するという事か？
事務局	新たに分団を設立するか、既設の分団に集約させるかは現在のところ未定。しかし、新たに分団を設立すると、様々な手続き等が発生するため、既存分団に集約させる方がより現実的である。
委員	以前、ある分団と隣接する分団組織のない地区で消防団の集約の話をした事があるが、この時、この地区が「消防団費は払わない」と言われ、集約は断念となった経緯がある。そういう面の問題が解消されれば集約も問題ないと思う。 また、自然災害発生時などは、既存分団や公官庁、消防署などに頼らず、消防団組織のない自治会や団地にも自主防災組織があると思うので、積極的に協力すべきではないか？
議長	この件に関しては、後の議題で討議するので、一旦議論に戻る。 事務局の案に対して意見を伺いたい。
委員	社地域は、問題の少ない地域と危機的な地域が混在しており、滝野地区は、現状維持の地区が多く、東条地域は、現段階で既に危機的状況にあり、5年から10年後の存続も危うく、団員から早急に何か対策をして欲しいとの要望が上がっている。 自治会活動、地区や地域独自の祭り、伝統行事、負担金などの問題もあり、そのバランスやしがらみなどを考えると統廃合は安易ではないが、消防団としてはこれらの件を前向きにすすめたいと考えている。
議長	東条地域住民としての意見を伺いたい。

発言者	説明内容・発言内容等
委員	<p>10年前に旧3町が合併する時、1地区あたりの戸数が100軒未満の地区を対象に分団の統廃合の話も議題に上がったが、各地区からの負担金などの問題もあり、現状のままで良いと言う意見も多く、消防団の統廃合の議題は否決となった。</p> <p>団員の減少による人員の確保は、新入団がない地区はOBでカバーし、現状維持することになり、秋津台や永福台などの別荘地は、周辺の分団でカバーすれば良いと言うことで話がまとまった。</p>
議長	この件に関して団員からの意見を伺いたい。
委員	私の住んでいる地区でこの件について議論すると、高齢者は危機感が少なく、現状維持で問題ないとの意見が出るが、現状や人口推移を見ると30年後の特に若年層の人口減少は明らかで、将来を見据えると危機的状況である。高齢者に10年から20年先を見越しての判断をしてもらうのは難しいが、この人たちの理解も得ないと地区・消防団の統廃合は難しいと思う。
委員	仮に複数の分団を統合した場合、消防車両は統合した地区内で1台とし、ポンプについては各地区に1台ずつ配備するのもひとつの案である。
議長	統合した場合、ものによっては、地区で共有するものや、各地区毎に残すものもあるという案ですね。
委員	分団を統廃合し、資機材は共有するもの、各地区毎に残すものを定めることは理解できるが、例えば各地区単位で行う行事には、その地区で最低限必要な人員を確保する必要もあることから、統廃合しても現有分団員数を減らすことに問題が生じないか心配である。
議長	滝野地域について意見を伺いたい。
委員	以前は団員数の減少などの問題は殆んどなかったが、最近はこの問題が顕著に現れてきているように思う。滝野地域は、新興住宅が増えたが、地域との付き合いがないのが問題。このため人口は減っていないが、若者が居ても入団するとは限らないため、将来が安泰とは思わない。この先は人口減少等により、分団の統廃合が必要になってくると思うが、地域独自の行事などもあるため地区に最小限の人員も必要になる。このため、今後はこれらの緻密な調整が鍵になってくると思う。
委員	資機材を共同管理するのは難しいケースも考えられるが、分団の統廃合は進めていく必要がある。
委員	各分団に配備されている資機材は旧滝野町時代に自主防災組織用に揃えたものである。資機材の管理は消防団だけでなく自主防災組織と連携をとる必要がある。統廃合の話が進めば、管理の件も自主防災組織との連携が必要になる。

発言者	説明内容・発言内容等
議長	社地域について意見を伺いたい。
委員	鴨川地区は、平日昼間に消防団員が殆ど地域に残っていないのが現状で、有事の際は消防署の到着を待つまでの間、分団OBが出動して活動を補っている。統廃合の問題は時間が掛かると思うが、各地区・消防団と連絡を密に話し合い進めていきたい。
議長	統廃合を考えざるを得ない切迫した状況の地区もある中、歴史や経緯・背景などがあり統廃合は難しい問題も抱えている地区もある。さらに、市内の各地区内でも温度差があり、状況も違っているという話など、いろんな意見が出た。 これらの問題は、この会で個別事案として解決できない問題でもあるが、この会はそれらの方向性の後押や、仕掛けをするためのものとしたい。
議長	これらのことについて他に意見を伺いたい。
委員	私の住んでいる地区は北野・新町・穂積とも面積も小さく、地区も密着しているので集約しやすいように思う。地区の繋がりなどを考えると難しいのかもしれないが、団員減少などを考えると統廃合は必要なことだと思う。
委員	少分谷分団を例に出すと、実団員は6名で、内市の内在住者は3名、実稼働団員は5名のため、操法大会の人員選出に大変苦勞した。消防団の統廃合を行うにあたり、まず見直すのは操法大会出場分団の統合からではどうか。以前、奥分団と畑分団が合同でチームを編成し出場した際、色々と問題もあり時間を要したと聞くが、結果うまくいった経緯がある。 このため、まずは小規模分団の操法大会出場の統合から手始めに、熟考を重ねながら最終的に分団の統廃合に繋げていけばいいと思う。
議長	操法大会の出場に対し、複数の分団からチームを結成することで、練習・本番を重ね絆が生まれる。かたや、資機材を共有していくことで、地域統合の方向に進めるのではないかな等、統廃合の方法もいろんな手法がある。
委員	光明寺地区は42世帯の中から団員15名を確保するのは非常に困難である。滝野地域は各地区の面積がコンパクトなため隣接地区同士の連携もとれており、統合の話は進め易いと思う。ただ、加古川の東地区は平地で少人数でも活動しやすいが、川の西地区は山地が多く活動範囲が広いため少人数での活動は厳しい。 統廃合をすすめるのなら、このあたりも考慮に入れるべき。
委員	その通りだと思う。統廃合をすすめる場合、地区面積も考慮すべき。
委員	貝原地区は、世帯が少ないため地区の行事も単独では出来ない場合がある。このため、今日の会議の趣旨に先駆けて、小学校の通学班を隣接地区と協力し合っ て班編成している。
議長	この案件は事務局でまとめた上、あり方検討委員会最終回で再度討議を行うこ

発言者	説明内容・発言内容等
	<p>ととし、次の議題に移る。</p> <p>過去3回開催した協議内容を、事務局で取りまとめているので、説明の後各個で振り返り、実践に繋がる方向にまとめたので意見を伺いたい。</p>
事務局	第1回目から第3回目までのまとめの説明
議長	<p>直ぐに実践出来そうなものもあれば、問題はあるがそれらを解決しながら長期的にすすめるべきものもある。この検討委員会では、最終的にここで協議をしたものが生かされる方向性をもったものにまとめていくこととする。</p> <p>今説明のあった、過去3回の意見に対し、今後の方向性について意見を伺いたい。</p>
委員	<p>活動内容を傍観するだけより、自ら実践したことで消防団活動の素晴らしさがわかった。一般市民にももっと見てもらえる場が増えれば、理解が広がり啓発に繋がるのではないかと。</p>
委員	<p>今までは、新入団の勧誘や消防団の認知度アップに関して表立った活動をしていなかったが、この検討委員会が始まり、さまざまな啓発活動が増えた。昨年秋のフェスティバルで子供達を対象に行った「消防団放水体験」では541名もの参加者が体験してもらえた。</p>
委員	<p>秋のフェスティバルでは自分の子供に消防服を着せてもらいホース体験などを行った。せっかくのチャンスなので、付き添いの父親にも声掛け、体験案内、消防団の説明をするなど、啓発活動をもっとしたらいいと感じた。</p>
委員	当然声かけは行っており、記念品を添えたパンフレットなども渡している。
議長	<p>以前の意見の中で、入団体験試行期間を設ける件について、試行期間終了時に退団したいと思っている団員も一緒に辞めないかが心配だが、チャレンジとしてモデル地域を作り試行してみるのはいかがでしょうか？</p>
委員	リスクはあるが、やらないよりはやってみる方がいいと思う。
委員	旧町時代は分団毎で定数が決まっていたが、合併後は市単位での定数となったため本来必要な団員数がわかりにくくなっている。
議長	<p>定数条例に定められた定数の確保は必要だと思う。また、現状の幽霊団員の増加や、実働団員の減少対策を行っていく必要もある。</p> <p>消防団は、火災や風水害等発生時に対応していく立場もあれば、平常時から地区と連携をとりながら、地区内で教育者的な役割も担っていかなければならず、団活動の内容が以前と比べると多様化し重要な役目も担っている。この様な状況のもと、重要な役割がある反面団員数の減少など、相矛盾した形となっている。</p> <p>その他、意見があれば意見を伺いたい。特に女性消防団について、既存の各分団へ女性に入団してもらうことに問題はないか？</p>
委員	女性を各分団に入団してもらうのは色々な問題も生じるので現状では難しい。本部

発言者	説明内容・発言内容等
	所属でイベントのアナウンスや、広報活動要員として役割が望ましい。
委員	社会福祉協議会を通じてボランティア人員を要請し、各種イベント時などの広報活動要員として活動してもらうのはどうか。
議長	これまで議論してきた内容の中から実践できるものを取りまとめ、次回の委員会で議論する。
委員	次回の委員会で、消防団の必要性を住民にもっとPRする事を入れて欲しいことと、学校への協力依頼を強化して欲しい。また、商工会の立場から入団促進協力依頼をしっかりと行ってほしい。トライアルウィークのように、協力が必要な場合で、依頼があれば協賛する企業もある。
議長	直ぐに出来るもの、少し時間のかかるものを仕分けして、次回の委員会で検討したい。
委員	<p>地域で努力する気持ちが少ないように思う。行政役割は確かに重要だが、「自分達の地区は自分達で守る」という気持ちも大切である。昔はその地区で生まれれば、子供会、消防団、地区役員、老人会などを順番に努め、その結果、地区の中で自分の役割や必要性などを認識するとともに、各団体同士や異年齢同士など横の繋がりも強く、消防団の役割も地区の中で皆が理解していた。</p> <p>本日の意見の中で、行政に対しての要望などの意見も出ていたが、地区、非常備消防、常備消防など、三位一体でこのテーマに取り組む事が大事であるため、次回の委員会にこれらの内容も是非盛り込んで欲しい。</p>
議長	<p>地区と消防団に、以前のような密接な繋がりが、年々希薄化してきている。PRも大切だが、消防団員が地区に出向いて、消火器、消火栓、AEDの使い方などを指導することで、交流と絆、そしてお互いに理解が図れ、地域内ぐるみで消防団の重要性も認識してもらうことが出来ることは非常に大事な意見である。</p> <p>本日はこれで終了する。</p>
委員	挨拶
事務局	次回開催は、来年3月の予定。日程調整次第追って連絡する。以上。

5 閉会